

アメリカ南部における歴史的黒人大学（HBCU）の歴史と教育：
アーカンソー大学パイナップラフ校での日本語・日本文化教育を通して
History and Education in Historically Black Colleges and Universities in the Southern U.S.:
Teaching Japanese Language and Culture at the University of Arkansas at Pine Bluff

江口 真規 (Maki EGUCHI) ¹

要旨

2020年にBlack Lives Matterと呼ばれる人種差別抗議活動が世界各国に広まった中、アメリカにおける人種差別の歴史と教育について考えるうえで、歴史的黒人大学（Historically Black Colleges and Universities、HBCU）の存在を見逃すことはできない。本稿では、アメリカでHBCUが設立された歴史的・社会的経緯や、特にアメリカ南部のアフリカ系アメリカ人の学生の現状について、報告者のHBCUでの日本語・日本文化教育の活動をもとに考察を行う。また、2019年2月に開催された秋田県及び東京での黒人歴史月間での取り組みの例を通じて、アメリカの人種問題を日本で教え学ぶことの意義を考えたい。

キーワード：歴史的黒人大学（HBCU）、アメリカ南部、ディープサウス、アーカンソー、黒人歴史月間

Abstract

In 2020, a political and social protest called Black Lives Matter spread not only in the United States but also throughout the world. In considering the history of racial discrimination and education in the United States, concern about historically Black colleges and universities (HBCUs) has been growing. Based on my teaching experience at the University of Arkansas at Pine Bluff during the 2012–2013 academic year, this essay will introduce the social and historical backgrounds of HBCUs and their role in the American South. I intend to argue in favor of the significance of teaching and learning racial issues in Japan through examples of public lectures in Japan titled “Black History Month in Akita and Tokyo” in February 2019.

Keywords: Historically Black Colleges and Universities (HBCUs), American South, Deep South, Arkansas, Black History Month

1. はじめに

2013年にアメリカで始まったBlack Lives Matter（BLM）と呼ばれる人種差別抗議活動は、2020年のジョージ・フロイド（George Floyd, 1973–2020）の殺害をはじめとする警察官による黒人の殺害事件をきっかけに世界各国に広がった（山本ほか 2020）。この動きは、アメリカだけではなく世界各地に広がりを見せ、日本でも2020年6月に東京で3500人が集まりデモ行進が行われた（坪池 2020）。

BLMの報道を通して、アメリカでは人種差別が根強く残っていること、また、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下において、人種的マイノリティの存在が社会・経済的

¹ 筑波大学人文社会系 助教。メール：eguchi.maki.fw@u.tsukuba.ac.jp.

© 2022 Journal of International and Advanced Japanese Studies, Master's and Doctoral Program in International and Advanced Japanese Studies, Degree Programs in Humanities and Social Sciences, Graduate School of Business Sciences, Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

な影響を受けやすいことが日本でも知られるようになったといえるだろう。しかし、BLMを報じるメディアや SNS の情報からは、黒人がどのような差別を受け、どのような不安を抱いているのか、一人一人の現状を十分に理解するのは難しい。そこではあくまでも「黒人」と一般化され、その中にある様々な差異——性別、セクシュアリティ、年齢、職業、住んでいる地域など——は捨象されているかのように見える。

アメリカの人種差別は白人と黒人の問題であり、日本人には関係がないと思われることもある。しかし、日本では人種問題に無自覚であるために生じている差別の例が見受けられる。例えば近年では、2019年2月に放映された日清食品のテレビアニメCMにおいて、大坂なおみ選手の肌の色が白く描かれていたこと²や、BLMに関するNHKのアニメ動画にステレオタイプの黒人の表象が現れる³といったメディアでの表象の問題が批判されてもいる。

アメリカにおける人種差別の歴史と教育について考えるうえで、歴史的黒人大学 (Historically Black Colleges and Universities、以下 HBCU と略記) の存在を見逃すことはできない。本稿では、報告者の HBCU での日本語・日本文化教育の経験をもとに、HBCU が設立された経緯や、特にアメリカ南部の地域社会で果たす役割について述べる。資料やデータから判明するものだけでなく、HBCU の学生が人種差別に向き合いながらどのような学生生活を送っているのか、学生たちとの対話を通して明らかになった点を論じたい。また、毎年2月は黒人歴史月間 (Black History Month) として、黒人の歴史や文化について学ぶ取り組みが行われるが、2019年2月に開催された秋田県及び東京での講演会の事例を通じて、アメリカの人種問題を日本で教え学ぶことの意義を考えていきたい。

なお、本稿では、アメリカの「黒人」(Black) について言及する際に、歴史的な背景を考慮しつつ、「アフリカ系アメリカ人」(African-American) の用語も用いることとする。

2. アーカンソー大学パイブラフ校について：HBCU の歴史

まず、報告者が HBCU で日本語・日本文化を教えた経緯と、アーカンソー大学パイブラフ校 (University of Arkansas at Pine Bluff、以下 UAPB と略記) について、HBCU の歴史と合わせて概要を述べる。

2.1 アーカンソー大学パイブラフ校 (UAPB) について

報告者は 2012 年から 2013 年に、日米教育委員会のフルブライト語学アシスタント (Fulbright Foreign Language Teaching Assistant、以下 FLTA と略記) プログラムに参加した。FLTA は、アメリカ国務省機関である米国国際教育研究所 (Institute of International Education) によって運営されている奨学金のプログラムである。アメリカにおける他言

² ハイチ系アメリカ人の父と日本人の母をもつ大坂なおみ選手を描いたこの CM においては、肌の色が実際よりも白く描かれ、非白人を白人のように描く「ホワイトウォッシュ」(whitewash) ではないかという指摘が SNS 上で挙がった。しかし、大坂のスポンサーでもある日清食品は、意図的ではなかったものの配慮が不足していたと謝罪し、動画を削除している (BBC 2019; 生田 2019)。

³ NHK のニュース番組「これがわかった!世界のいま」が公式 Twitter アカウントに投稿したアニメ動画の中で、怒りを露わにする黒人がステレオタイプのかつ差別的に描かれ、また抗議デモの背景として人種差別の歴史に触れずに経済的な格差という側面のみに焦点を当てている点に対して、SNS を中心に批判が巻き起こった (生田 2020)。

語・他文化の理解を高めることを目的として 1968 年に開始され、2012 年には 50 を超える国々から 400 名以上が参加していた（Institute of International Education 2021）。

FLTA には、アメリカの大学で母国語を教えながら、英語教授のスキルを高め、アメリカの文化や習慣について知識を深めることが求められる。そのため、FLTA はアメリカの大学で 1 学年間、週 20 時間を限度に教員もしくはアシスタントとして言語クラスを担当するほか、アメリカ研究や英語教授法に関する科目を 1 学期間に 2 科目受講することとなっている。FLTA には文化を伝える「文化大使」（“cultural ambassador”）としての役割が求められ、授業だけではなく、課外活動や地域の人々との交流といった活動への参加も含まれる（Institute of International Education 2021）。

このプログラムの特徴の一つは、派遣先の大学を FLTA 自身が決定できない点であり、アメリカで応募のあった大学と FLTA の申請情報などをもとに派遣先が決定される。報告者が派遣されたのが UAPB であり、UAPB はアーカンソー州内に 5 校ある州立アーカンソー大学システムのうちの一校である。

UAPB の歴史は 1873 年に遡る。当初はその地域の黒人学生のためのカレッジ（Branch Normal College）として設立され、1890 年にはアメリカのランドグラント大学（land-grant university、土地付与大学）の一つとなった。ランドグラント大学とは、連邦政府が所有する土地を州政府に供与し、農学や軍事学、工学の教育・研究のために高等教育機関を設立することを目的とするモリル・ランドグラント法によって創設された大学のことである（Gavazzi & Gee, 2018）⁴。UAPB には、現在では総合大学として 4 学部があるが、地域の農業や産業、特にミシシッピ河流域のナマズなどの養殖業を支援するための教育・研究が行われている。報告者が滞在した 2012 年度には、学部生・大学院生合わせて約 2800 人の学生が在籍しており、アメリカの大学としては小規模の大学であるといえる（University of Arkansas at Pine Bluff 2012）。

2.2 歴史的黒人大学（HBCU）について

UAPB の大きな特徴は、上述したように創設当初は黒人のための大学であったことである。UAPB は、現在アメリカに 101 校ある HBCU の一つである。ここで、山本ほか（2020）、パターソン（2010）を参照し、アメリカで HBCU が設立された経緯を概略したい。

17 世紀、バージニア植民地におけるアフリカ大陸からの奴隷の上陸以後、タバコや綿花のプランテーション農業により、白人の農園主による黒人奴隷の使役が広まっていった。特にミシシッピ河流域では、奴隷を用いた綿花の栽培が行われたことは周知の事実である。1861 年から 1865 年の南北戦争では、奴隷制の存続を主張する南部 11 州と、奴隷制に反対する北部 23 州の間で衝突が起こった。1862 年に当時のアメリカ大統領であったリンカーンによって奴隷解放宣言が出され、北部が勝利を治める。その後、合衆国憲法の修正により、奴隷制の廃止・奴隷の権利が確保され、人種を問わず法による平等が定められた。

⁴ 現在アメリカには、パーデュー大学（インディアナ州）、コーネル大学（ニューヨーク州）、ラトガース大学（ニュージャージー州）、ミシガン州立大学（ミシガン州）、テキサス A&M 大学（テキサス州）、カリフォルニア大学システム（カリフォルニア州）等の大学や、HBCU、先住民保留地にキャンパスのある部族大学（Tribal Colleges and Universities）等を含む約 300 のランドグラント大学がある（Gavazzi & Gee, 2018）。

しかし戦後の南部では、黒人が白人と同じ公共施設を使用することを禁じるジム・クロウ法が可決され、1896年のプレッシー対ファーガソン裁判では、これが人種差別に当たらないとする最高裁の判決が下される。「分離すれども平等」(“separate but equal”)という原理のもと、南部諸州では、学校やレストラン、バス、トイレといった空間や、教育・医療・結婚などのサービスや制度において、白人と黒人を分離する政策が1960年代まで続くこととなる。UAPBの前身となる大学が黒人学生のために設立されたのも、この期間にあたる1870年代である。

人種分離政策の転機が訪れたのは、ようやく1950年代になってからであった。公民権運動の高まりに乗じて、ジム・クロウ法の裁判闘争が行われるようになり、1954年には、ブラウン対教育委員会裁判において、公立学校における人種分離は違憲であるとする判決がなされる。これまで白人だけが通うことのできた学校に黒人も入学することができるようになり、また黒人のために設立された大学にも黒人以外の学生が通うことができるようになったのである。これにより、UAPBにも、黒人だけではなくあらゆる人種の学生が通うことが可能となった。

このような経緯を通して、「歴史的(historically)」黒人大学がアメリカの中に誕生することとなった。つまり、HBCUは、かつては黒人のための教育機関であったが、現在では全ての人種の学生に開かれている。HBCUは、2021年の時点において、公立・私立を含みアメリカ全土に101校ある(National Center for Education Statistics 2021)⁵。東部や南部に位置する大学が多く、アフリカ系アメリカ人の人口の割合が多い地域に位置していることがわかる(United States Census Bureau 2011)。現在では、HBCUの学生の人種構成は地域や大学によって異なる(Minor 2008)。しかし、報告者が滞在していた2012年度のUAPBでは、学生の93%がアフリカ系アメリカ人、4%が白人、留学生在が1%、残りの2%がヒスパニック・ネイティブアメリカン・アジア系となっており、ほとんどの学生がアフリカ系アメリカ人であり、留学生もアフリカやカリブ海諸国出身者の割合が多いものとなっていた(University of Arkansas at Pine Bluff 2012)。

2.3 アーカンソー州パイナブラフ市について

UAPBは、アーカンソー州で初めて設立された黒人のための教育機関である(University of Arkansas at Pine Bluff 2021)。ここで、アーカンソーにHBCUが存在することの意義を考察したい。

アーカンソー州はアメリカ中南部に位置し、クリントン元大統領の出身地として、また世界最大規模のスーパーマーケット企業であるウォルマート社(Walmart)や、食品加工業社であるタイソン・フーズ(Tyson Foods)の本部があることで知られている。

アーカンソー州全体の人種構成は、白人が8割、アフリカ系アメリカ人が2割となっているが、パイナブラフ市ではこの比率が逆転し、白人が2割、アフリカ系アメリカ人が8割となる(United States Census Bureau 2021b)。アメリカ全体では、資料のある2018年時点でアフリカ系アメリカ人は13%となっており、特に東部から南部にかけて人口比の

⁵ 2021年には、1月に副大統領に就任したカマラ・ハリス(Kamala Devi Harris, 1964-)が、ワシントンD.C.にあるHBCUのハワード大学(Howard University)出身であることも知られるようになった(Goins 2021)。

割合が高い（United States Census Bureau 2021b）。この一帯は「ブラック・ベルト」（Black Belt）と呼ばれ、上述したプランテーション農業の歴史と関係しているが、1860年の奴隷の分布図と比較しても人種構成はそれほど大きくは変化していない（United States Census Bureau 2021a）。アーカンソー州の東南部に位置するパインブラフ市は、かつてより南の州からの解放奴隷が集まった都市であった（Whayne 2002）。このように、アーカンソー州内においても、北部と南部、また西部とミシシッピ河流域の東部で人種構成が異なることがわかる。

アーカンソーの歴史で着目されるのは、州の中央部に位置する州都・リトルロックで起こった、1957年のリトルロック高校事件（Little Rock Nine）である。1954年のブラウン対教育委員会裁判での違憲判決を機に、これまで白人しか通学していなかったリトルロック・セントラル高校に、9名のアフリカ系アメリカ人の生徒が通うことになった。この9名が初めて登校するという9月4日、アフリカ系アメリカ人生徒の通学を阻止するため白人による暴動が起こり、それを鎮圧するために州知事による命令のもと州兵が動員されたという事件である。これにより、アーカンソーには根強い人種差別が残っていることが全米に知られることとなった（Whayne 2002）。

パインブラフ市に関しては、アメリカの都市ごとの犯罪発生率のデータでは、報告者が滞在していた時期には同規模の354都市中4位であり（CQ Press 2011）、州内でも一般に治安の悪い地域として知られていた。昼間でも町を歩く人はほとんどおらず、ダウンタウンの店舗はほとんどがシャッターを閉め、強盗や銃撃事件といった事件の話題をよく耳にした。近所で銃声が鳴り響く夜もあり、また2013年にはUAPBの学生一名が銃の暴発で命を落とすという事件もあった。

3. 差別と教育の現状：日本語・日本文化教育活動を通して

以上、UAPBが設立された経緯や地域的な背景を概略したが、本節では報告者が担当した日本語クラスと、学生たちとの対話によって明らかになった差別と教育の現状について述べたい。

3.1 日本語クラスの概要

報告者はUAPBのビジネス経営学部にも所属し、FLTAとして担当した科目は「日本語」ではなく、「インターナショナル・マーケティング」の授業の一部として開講されているものであった。したがって学生は、日本語や日本文化を学ぶためにこの授業を履修したのではない。同学部のCarla Martin学部長（当時）及びEddie Hand教授によれば（私信）、UAPBの学生たちはアメリカ以外の文化に意図的に触れる機会が少なく、メディアの影響で偏った知識を身に付けがちであるという。国際教育が進む中でも、特に都市部から離れたHBCUでは、アフリカ系アメリカ人の中で閉じられたコミュニティが形成され、外国語学習や他文化に対する興味が少ないという現状がある。また、海外渡航や留学に関心を抱いてはいるものの、人種的・経済的な問題から困難を感じる学生も多い。そのような中で、UAPBでは、学生に他文化に接する機会を提供し将来の活躍の場を広げてほしいという願いから、国際教育プログラムの発展に取り組んでいた。その一環として、2012年度にFLTAプログラムが初めて導入されたという。

したがって、報告者の授業も、日本語の習得を目的とするよりも、日本語での基本的な挨拶や自己紹介、ひらがなの読み書きのほか、学生たちが日本について知りたいと思うテー

マについての講義とディスカッションを行うという内容で実施した。毎回の授業では、日本の自動車、ファッション、音楽、経済、観光業、ビジネスのマナーといったテーマを設定した。授業は主に3年生を対象としており、社会人として仕事をしながら大学に通っている学生、退職後大学に通い始めた学生、子育て中で子どもと一緒に参加している学生など、幅広い年代の受講生がいた。ビジネス経営学部の学生だけではなく、日本のマンガやアニメに詳しい学生からの希望もあり、巻き寿司パーティや浴衣の着付け、映画鑑賞、マンガ講読、折り紙といった日本語の課外活動も定期的にも実施した。

2012～2013年度にFLTAとしてUAPBで実施した授業の概要は、以下の通りである。

- 科目名：インターナショナル・マーケティング（International Marketing）
- 科目番号：MKTG 4320
- 単位：3単位
- 科目概要：マーケティング理論を国際貿易に適用する。多国籍企業におけるマーケティングの問題点と視点を理解する。海外市場に関連したマーケティングを分析する能力を身に付ける。
- 担当教員：【秋学期】Eddie Hand、江口真規（FLTA）
【春学期】Serena Breneman、江口真規（FLTA）
- 実施期間：【秋学期】2012年8月25日～2012年12月8日
月曜・水曜・金曜2限（10:00-10:50）
【春学期】2013年1月9日～2013年5月4日
月曜・水曜・金曜2限（10:00-10:50）
- 対象：ビジネス経営学部マーケティング専攻3年生
- 受講者数：【秋学期】3年生5名、教員2名（聴講）
【春学期】3年生25名

授業や課外活動を通して、学生との間で信頼関係を築き、また自由に議論できるような授業の雰囲気醸成することに、はじめは時間を要した。しかし、授業や研究室で互いのことを話したり聞いたりし、また同僚の教員と共に地域コミュニティのイベントや家族間の集まりに参加するなどして、学生や地域の現状を知るようになった。アメリカ南部に関しては、人種差別が根強く残り、貧しく、犯罪発生率が高いというネガティブな側面が強調される一方、「サザン・ホスピタリティ」（Southern hospitality）という言葉があるように、この土地に来た者を温かな気持ちで迎えてくれるような風土がある（Moore 2019）。

このような中で得られた学生たちとの対話の中で、次のような現状が明らかになった。

3.2 差別と教育の現状

UAPBの学生たちはアーカンソーや近隣の州の出身者が多かったが、中にはシカゴやロサンゼルスなど大都市出身の学生もいた。UAPBに来た理由としては、「HBCUに通うことで、アフリカ系アメリカ人として生きるプライドや自信を身に付けたい」という学生がいた。他の大学と比較した際のHBCUの教育の目的は、アフリカ系アメリカ人の歴史や文化を学び、そのアイデンティティを身に付け自己を肯定し、それ以外の多様性も同じように受け入れる姿勢を育むことである（Moore 2019）。

しかし、学生たちがUAPBを選んだのはそのような肯定的な理由だけではない。「高校までアフリカ系アメリカ人の人口が少ない地域に育ち、差別を受けてきたため、大学はアフリカ系アメリカ人の多い地域に行きたかったから」という理由で選択した学生もいる。パインブラフ市はアフリカ系アメリカ人の割合が高いことから、出身地よりも住みやすく感じ、卒業後も市内に残る学生もいる。家族の中で初めて大学に進学し、地元を離れ、大きなプレッシャーを感じているという学生もいた。

アフリカ系アメリカ人の学生たちの差別への不安は、日本語の授業内でも明らかになった。日本の都道府県や地理に関する講義を行った後、各自が日本の中で旅行に行きたい場所を調べ、想像上の旅程表を作るという課題を課した。その際に学生から、「日本に行ったら黒人は差別されるのか」という質問があった。この質問に対して、どのように答えることができるだろうか。

アフリカ系アメリカ人の学生たちは、アメリカ国内においても、自分たちが差別されないかどうか常に不安を抱えているという現状を知った。旅行先や居住地を選択する際にも、差別が少ないと思われる場所や、同じようにアフリカ系アメリカ人の多い地域を選ぶ傾向があるという。かつて訪れた国外の旅先で、「黒人だから」という理由で写真を撮られたことに対し、「自分は見世物ではない」とショックを受けた感想を語った学生もいた。

この質問を受けて、日本における人種差別の問題や、白人／黒人だけではない、在日韓国・朝鮮人やアイヌ民族、外国人、被差別部落など、日本社会の中の差別についても授業の中で説明を行った。学生たちは、「差別」については主に自分たちが受けているアメリカの人種差別だけを考えてしまう傾向にあったが、異なる社会では異なる差別があることを学んでいった。

これに関連して、UAPBでの学生の海外派遣の取り組みについて、アフリカ系アメリカ人の学生は、経済的な問題や、また家族の間での結び付きが強いことから、長期間アメリカを離れることにネガティブな反応が起こりやすく、海外留学は必ずしも促進されていなかった（Moore 2019）。しかし、アフリカ系アメリカ人学生のための海外留学奨学金制度が整備されてきたことから、UAPBでは毎年数名程度が半年～1年間程度留学するようになり、そのような学生の多くはアフリカへ行くことに興味を持っているという（Moore 2019）。

特に印象的であった、ある70代の学生の言葉についても述べたい。その学生は、働いて十分な貯金を得てから、大学でアートを学んでいた。若い頃には、大学に通うための経済的な余裕はなかったと言い、「我々ブラックには教育が必要なんだ」と話した。自分たちが置かれている社会的・経済的な状況を改善していくためには、教育しかないと訴え、UAPBの教育に携わっている報告者を励ました。しかし、教育が必要であるのは、差別を受けているアフリカ系アメリカ人だけだろうか。視点を転ずれば、人種差別を行ってきた側への教育も必要であると考えざるを得ないのである。

4. 日本における黒人歴史月間の取り組み

アーカンソーから帰国後、アフリカ系アメリカ人の学生たちの現状を知ってもらいたいと、フルブライトプログラムやアメリカ大使館の広報活動の一環としてUAPBでの経験を語る

機会を得た。2019年2月の黒人歴史月間⁶には、UAPBのPamela Moore博士を招聘し、秋田県と東京のアメリカ大使館において、アメリカの南部文化に関する講演会を開催した。講演者のMoore氏はミシシッピ州の出身で、政府機関や高等教育機関での活動を通し、アメリカやアフリカの黒人の貧困に関わる国際問題と地域貢献活動に長年携わってきた。2019年にはUAPBのグローバル・エンゲージメント副学部長及び農学部助教を務め、高等教育と国際化、農業法を専門としている。

4.1 高大連携講座「平成30年度あきた異文化コミュニケーション講座～Black History Month in Akita～」(2019年2月17日於カレッジプラザ、秋田県秋田市)

本講座は、報告者が当時勤めていた秋田県立大学の高大連携講座として実施された。異文化交流を通じて高校生・大学生が知見を広げ、英語学習のモチベーションを高めることを目的とし、アメリカの南部文化や人種差別、農業政策との関わりについて英語で学ぶ機会を提供した。講演は二部からなり、第1部は「アメリカ南部の歴史と文化」と題し、講義と音楽やダンスを取り入れた交流活動を中心に秋田県内の高校生を対象とした。第2部は「アメリカ南部の農業政策」と題し、高校生及び大学生・一般の参加者を対象に、アメリカ南部の農業政策(特にアーカンソー州の稲作)に関する英語の講演を行った。第1部には18名、第2部には19名が参加し、高校生や高校教員を中心に、県内外の大学生、大学教職員、書道家、公務員などが参加した。

講演会終了後に回答を依頼した参加者へのアンケートでは、次のような感想が寄せられた。以下、アンケートからの抜粋である。

- 黒人差別については授業やニュースで知っていたが、実際に黒人の人たちがどのように暮らしていたのか、今回の講座で初めて知ることができた。自分が黒人を差別する側にならないように、これからも勉強していきたい。(高校生)
- 地理の授業でアメリカの農業や歴史的背景を勉強していたので、内容が少し理解できた。(高校生)
- 曲[報告者注：講演中に紹介されたゴスペル・ブルースの代表曲“Let Your Light Shine on Me”]を聞いていて、多くの黒人達が公民権獲得に向けて盛り上がっていく様子も伝わってきた。(大学教員)
- 農業を巡る国際情勢に興味があったが、アメリカの農業や地方の暮らしについて大きく知見を広げることができた。今後の農業経済や農業政策の研究や将来の仕事に役立てたい。(大学生)
- 農業が様々な人の生活に少なからず影響を与えていることにもかわらず、若い担い手が減っていることが日米共通の課題ということに少し暗澹とした気持ちになった。(大学職員)

⁶ 黒人歴史月間は、アメリカ連邦政府が指定する記念月間の一つであり、毎年2月に指定されている。その起源は、1926年に、ハーヴァード大学のアフリカ系アメリカ人の学者であったカーター・G・ウッドソン博士(Carter G. Woodson, 1875-1950)が、「ニグロ歴史週間」(Negro History Week)を提唱したことに始まる。ウッドソン博士は、この週間を設けることにより、全てのアメリカ国民が自らの民族的ルーツを見直し、相互を尊重することを目的としていた。2月が指定されたのは、奴隷解放宣言を行ったエイブラハム・リンカーン(Abraham Lincoln, 1809-1865)と、アメリカで影響力のあった道徳的指導者フレデリック・ダグラス(Frederick Douglass, 1818-1895)の誕生月であったからである。この期間には、地域社会や教育機関などにおいて、アフリカ系アメリカ人の歴史や公民権運動をテーマとする講演会やイベントが開催される(Short 2001)。

- 今回のような企画は、高校生にとってとても貴重な体験。高校生の家庭の経済状況を考えるとそう簡単に留学できるものではないため、このような講座でネイティブスピーカーの方がその国・地域の歴史や文化、課題などについて話をすることは、それを聞いた生徒にとって、今後の自分の将来を考えたり、地元地域について考えるとき、ヒントになることがたくさんあると思う。（高校教員）

高校生を中心に、アメリカの人種差別やアフリカ系アメリカ人の実際の生活の様子を、講演者から直接聞くことで、学校で学ぶ知識をより身近な問題として捉えることができるようになったと考えられる。また、アーカンソー州はコメの生産量が全米一であることが知られているが（Arkansas Farm Bureau 2021）、秋田県内の人口減少と近年の農業政策、アメリカ南部の綿花栽培における奴隷解放と農業の機械化など、異文化における問題と地域の課題とを結び付けて考えた参加者からの意見も挙げられた。

4.2 在日米国大使館主催講演会「黒人歴史月間 アメリカ・ディープサウスへの探訪 – アメリカ南部に生きる：その歴史と現在」（2019年2月21日於白百合女子大学、東京都調布市）

この講演会は、アメリカ大使館が毎年2月に開催している黒人歴史月間の取り組みとして開催されたものである。アメリカの中でも最南部地域を示すディープサウス⁸のミシシッピ州に生まれ育った Moore 氏が、南部の文化や歴史、ネイティブ・アメリカンやイタリア系・ユダヤ系・アジア系を含む人種の多様性、また独自の風土を活用した地域政策について、自身の体験を交えながら同時通訳付きの講演を行った。

日本では知る機会の少ないディープサウスについて直接に話をうかがえるということもあり、会場は中学生から一般参加者を含め定員の80名満員となった。当時のアメリカはトランプ政権下にあり、アメリカ社会で起こっている分断に対する関心、また南部の文化・社会についての情報が日本では得られにくい状況を反映していたと考えられる。講演会後には、Moore 氏と英語・日本語での質疑応答が交わされた。

5. 終わりに：誰がアフリカ系アメリカ人について語るができるのか

東京での講演会の中で、Moore 氏は、同じくミシシッピ州出身のノーベル文学賞作家、ウィリアム・フォークナー（William Faulkner, 1897–1962）の小説『アブサロム、アブサロム！』（*Absalom, Absalom!*, 1936）の中の一節を引用した。

“Tell about the South. What’s it like there. What do they do there. Why do they live there. Why do they live at all” (Faulkner 1995: 174)

（邦訳：南部の話をしてくれよ。南部はどういうところなの。南部ではどういう暮らしをしているの。どうして南部なんかに住んでいるんだい。それより、そもそも南部の人はなぜ生きているんだい）（フォークナー2012: 21–22）

この小説の主人公と同じように、ミシシッピ州で生まれ育ち、ハーヴァード大学に進学し

⁸ ディープサウス（Deep South）は、アメリカ深南部を示す地理的な用語として、またその地域一帯で共有される歴史や伝統、信条や習慣を表すものとして、主にルイジアナ州、ミシシッピ州、アラバマ州、ジョージア州、サウスカロライナ州一帯を示すが、テキサス州、アーカンソー州、テネシー州、ノースカロライナ州、フロリダ州が含まれることもある（Birdsall & Florin 1998; United States Embassy in Japan 2019）。

た Moore 氏は、同じように南部の話聞かせてほしいと言われることが多いという。興味深いことに、日本人である報告者にも、度々同じ質問が投げかけられることがある。南部にいたことを知ると、その経験を聞かせてほしいと言われるのである。アメリカ人であっても、南部やアーカンソー州にはほとんど行ったことがないという人が多いことも知った。

アメリカ南部での人種差別の現状を目にして、逆説的ではあるが、日本国内の、あるいはより身近な、大学の中や教室の中、自分の住んでいる地域、隣人の間に潜む差別の問題の重要性により向かい合っていかなければならないと考えるようになった。アーカンソー州パイナブラフ市のアフリカ系アメリカ人の生活を「代弁」して語ることは、簡単なことではない。しかし、報告者が体験したことを伝えていかなければ、その現状は語られないままである。日本においても、アメリカの地域社会における HBCU の歴史や現状を伝えることで、多文化共生への取り組みや身近な差別に目を向けるきっかけの一つとなるだろう。

6. 謝辞

本教育活動に多大なご支援・ご協力を頂いた日米教育委員会、在日米国大使館、アーカンソー大学パイナブラフ校、秋田県立大学、筑波大学の皆様に、この場を借りて感謝の意を申し上げたい。

なお、本発表は、以下の口頭発表に加筆・修正を行ったものである。

- Eguchi, M. 2019. Bridging Akita and the American Deep South: Teaching cultural diversity in local universities and communities. Invited lecture at Akita JALT Chapter Meeting, Yugakusha, Akita, 27 April, 2019.
- 江口真規 (2021) 「歴史的黒人大学における多文化共生の取り組み：アーカンソー大学パイナブラフ校での日本語教育を通して」筑波大学人文・文化学群日本語・日本文化学類第 3 回シンポジウム「地域社会と多文化共生」、オンライン開催、2021 年 2 月 6 日

参考文献

- 生田綾 (2019) 「「日本だから例外」にはならない。日清 CM 騒動から考える、マイノリティーを描くということ」『ハフポスト』2019 年 2 月 23 日
https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5c6e55a5e4b0e2f4d8a2c5bd (2021 年 10 月 1 日最終アクセス)
- 生田綾 (2020) 「黒人を描いた NHK のアニメ動画はなぜ差別的で、『許されない』表現なのか」『ハフポスト』2020 年 6 月 11 日
https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5ee0a01bc5b6faafc92b76de (2021 年 2 月 5 日最終アクセス)
- 坪池順 (2020) 「私たちが日本で Black Lives Matter を訴える理由。東京で 3500 人がデモ行進」『ハフポスト』2020 年 6 月 17 日
https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5ee595d1c5b6f20b4d0e8d5b (2021 年 11 月 12 日最終アクセス)
- フォークナー、ウィリアム (2012) 『アブサロム、アブサロム!』藤平育子訳、岩波書店

パターソン、ジェームズ（2010）『ブラウン判決の遺産：アメリカ公民権運動と教育制度の歴史』慶應義塾大学出版会、2010年

山本伸・西垣内磨留美・馬場聡編著（2020）『ブラック・ライブズ・スタディーズ：BLM運動を知る15のクリティカル・エッセイ』三月社

- Arkansas Farm Bureau. 2021. Arkansas Agriculture: Rice. <https://www.arfb.com/pages/arkansas-agriculture/commodity-corner/rice/> (accessed 25 June, 2021).
- BBC. 2019. Naomi Osaka: Noodle company apologises for 'white-washing.' BBC, 23 January 2019. <https://www.bbc.com/news/world-asia-46972920> (accessed 5 February, 2021).
- Birdsall, S. and Florin, John. 1998. The Deep South. "An Outline of American Geography." United States Department of State. <https://americancenterjapan.com/aboutusa/translations/3522/#enlist> (accessed 1 October, 2021).
- CQ Press. 2011. City Crime Rankings 2010-2011. <http://os.cqpress.com/citycrime/2010/citycrime2010-2011.htm> (accessed 5 February, 2021).
- Faulkner, W. 1995. "Absalom, Absalom!" London: Vintage.
- Gavazzi, S. and Gee, G. 2018. "Land-Grant Universities for the Future: Higher Education for the Public Good." Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Goins, J. 2021. Why is the spotlight on HBCUs? It's more than just Vice President Kamala Harris. Chicago Tribune, 16 March 2021. <https://www.chicagotribune.com/business/careers-finance/sns-hbcu-spotlight-kamala-harris-20210316-f7rq3d4gwfq47py5t5i7rtor4u-photogallery.html> (accessed 25 June, 2021).
- Institute of International Education. 2021. Fulbright Foreign Language Teaching Assistant (FLTA) Program. <https://foreign.fulbrightonline.org/about/flta-program> (accessed 25 June 2021).
- Minor, J. 2008. A contemporary perspective on the role of public HBCUs: Perspicacity from Mississippi. The Journal of Negro Education, 77/4: 323-335.
- Moore, P. 2019. Journey through the American Deep South --- Past and Present: Reflections and Memories from a Southern Perspective. Paper presented at Symposium on Black History Month 2019, Shirayuri Women's University and U.S. Embassy in Japan, 21 February, 2019.
- National Center for Education Statistics. 2021. Accredited HBCU Listing. <https://nces.ed.gov/COLLEGENAVIGATOR/?s=all&sp=4&pg=1> (accessed 25 June, 2021).
- Short, D. 2001. Black History Month. "Celebrate! Holidays in the U.S.A." United States Department of State. <https://americanenglish.state.gov/resources/celebrate-holidays-usa> (accessed 1 October, 2021).
- United States Census Bureau. 2011. Majority of the Black Population Lived in the South. <https://www.census.gov/newsroom/blogs/random-samplings/2011/11/majority-of-the-black-population-lived-in-the-south.html> (accessed 25 June, 2021).
- United States Census Bureau. 2021a. Map Showing the Distribution of the Slave Population of the Southern States of the United States Compiled from the Census of 1860. https://www.census.gov/history/pdf/1860_slave_distribution.pdf (accessed 25 June, 2021).

- United States Census Bureau. 2021b. Race and Ethnicity.
<https://data.census.gov/cedsci/profile?q=United%20States&g=0100000US> (accessed 5 February, 2021).
- United States Embassy in Japan. 2019. History and Hospitality Converge in American Deep South. American View. <https://amview.japan.usembassy.gov/en/history-and-hospitality-converge-in-american-deep-south/> (accessed 1 October, 2021).
- University of Arkansas at Pine Bluff. 2012. UAPB Quick Facts Fall 2012.
- University of Arkansas at Pine Bluff. 2021. Historical Overview.
http://www.uapb.edu/about/historical_overview.aspx (accessed 25 June, 2021).
- Whayne, M. et al. 2002. "Arkansas: A Narrative History." Fayetteville: University of Arkansas Press.